

～ 子どもの主な感染症 ～

二重線内の感染症が2割を超えた場合は希望保育となる可能性があります。

病名	主な症状	潜伏期間	前駆症状	感染経路	発症	出席停止の基準	登園許可証が必要	添削報告書が必要
はしか(麻疹)	発熱、くしゃみ、結膜炎、発疹	8～12日	3～4日間の発熱、咳、鼻水、くしゃみ、目やに、結膜炎を起こすこともある。	飛沫感染(発疹前が感染力強い)空気感染	終生	解熱後3日を経過していること	○	
水ぼうそう(水痘)	発熱、水疱のある発疹	14～16日	発疹で始まり37～38℃の発熱。食欲不振、発疹の先に水疱を形成、かゆみを伴う。	飛沫感染、接触感染、空気感染	終生	全ての発しんが痂皮(かさぶた)化していること	○	
おたふくかぜ(流行性耳下腺炎)	発疹、耳下腺の腫れ	16～18日	頭痛、嘔吐、腹痛、食欲不振などの症状が1～2日続く。	飛沫感染(春～夏に多い)	終生	耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫れが現れた後5日を経過しかつ全身状態が良好になっていること	○	
百日咳	熱がなく、特有の咳	7～10日	かぜ症状	飛沫感染	終生	特有の咳が消失していること又は適正な抗菌性物質製剤による5日間の治療が終了していること	○	
風疹(三日ばしか)	軽い風症状、発疹	16～18日	発熱とともに発疹ができる。	飛沫感染(春秋冬に多い)	終生	発しんが消失していること	○	
インフルエンザ	発熱、咳、節々の痛み	1～4日	突然の発熱、咳、咽頭痛、頭痛、嘔吐(下痢を伴う)倦怠感	飛沫感染		発症した後5日を経過し、かつ、解熱した後3日を経過していること	○	○
新型コロナウイルス	発熱、咳、喉の痛み、節々の痛み	2～7日	発熱、倦怠感、下痢などの消化器症状、味覚異常、関節痛、咽頭痛	飛沫感染、エアロゾル感染		発症から5日間経過し、かつ症状軽快後1日を経過すること	○	○
プール熱・アデノウイルス(咽頭結膜熱)	発熱、喉の痛み、結膜充血	2～14日	突然39℃前後の発熱が1～3日続く。	飛沫、プールでは結核から		発熱、充血等の症状が消失した後2日経過していること	○	
結核	発熱、咳、疲れやすい	3か月～数10年		飛沫、経胎盤、空気感染		医師により感染の恐れがないと認められていること	○	
髄膜炎菌性髄膜炎	髄膜炎症状(頭痛、発熱、痙攣、意識障害、髄膜刺激症状、乳児では大泉門膨隆)	4日以内		飛沫感染		医師により感染の恐れがないと認められていること	○	
腸管出血性大腸菌感染症(O-157等)	下痢、水様便、血便、腹痛	3～4日		経口感染		医師により感染の恐れがないと認められていること	○	
流行性結膜炎	結膜炎、目の異物感	2～14日	目やに、充血、発熱	接触感染		結膜炎の症状が消失していること	○	
急性出血性結膜炎	結膜炎、目の異物感	24時間又は2日～3日		接触感染		医師により感染の恐れがないと認められていること	○	
溶連菌感染症	発熱、喉の発赤、腫れ、痛み	2～5日	高熱のあと、首、胸、下肢の股に淡紅色の発疹	飛沫感染、経口感染		抗菌薬内服後24～48時間を経過していること		○
ノロウイルスによる食中毒	嘔気、嘔吐、腹痛、下痢、発熱	12～48時間		経口感染(冬に多く発生)		嘔吐、下痢等の症状が治まり、普段の食事がとれること		○
感染性胃腸炎(ロタウイルス等)	嘔吐、下痢、発熱	1～3日		経口感染		嘔吐、下痢等の症状が治まり、普段の食事がとれること		○
手足口病	発熱、口腔に痛みを伴う水疱、手足の発疹水疱	3～6日	口内、手の平、足の裏、臀部膝に小さい水疱。	飛沫感染、経口感染(春～夏に多い)		発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること		○
りんご病(伝染性紅斑)	かぜ症状、顔の紅斑	4～14日	発熱はあまりない。時に37℃、顔両ほほに発疹	飛沫感染		全身状態がよいこと		○
ヘルパンギーナ	突然の発熱、喉の痛み	3～6日	高熱が3～5日続く	飛沫感染、経口感染		発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること		○
マイコプラズマ感染症	かぜ症状、ひどい咳	2～3週間		飛沫感染		発熱や激しい咳が治まっていること		○
RSウイルス感染症	水のような鼻汁、鼻づまり、ひどい咳、むせるような咳、多呼吸、呼吸困難	4～6日	鼻汁、咳、発熱などの上気道症状	飛沫感染、接触感染、空気感染		呼吸器症状が消失し、全身状態が良いこと		○